

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3372300354		
法人名	医療法人 紀典会		
事業所名	グループホーム アネシス		
所在地	岡山県和気郡和気町和気 266-1		
自己評価作成日	令和2年3月5日(木)	評価結果市町村受理日	令和2年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和2年3月27日(金)		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居者の自己決定を尊重し、一人一人のペースに合わせ”その人らしい生活”が送れるよう心掛けている。同屋内にある小規模多機能型居宅介護「和が家」内では学童保育を整備しており、高齢者と子どもが同じ空間で過ごせる場を提供している。又、ホームページの「アネシスブログ」にて日々の様子を公開している。同じ法人内の各事業所が隣接しており、各専門職に相談や助言をもらうことができやすい環境にある。また、スタッフの自己研鑽のため、研修会の参加は積極的にしている。北川病院看護師の週1回の訪問サービスを受けており、また、老人保健施設看護師の週1回の医療連携と随時医療相談が出来やすい環境にある。運営推進会議には区長に参加頂き、災害時の連携体制を整備し、会議内では災害に関する情報交換を行っている。生活機能向上連携加算による生活リハビリではその方の希望に添った生活の継続が出来るようリハビリ職員とも連携を図っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

母体である北川病院はこの地域の医療・福祉・介護の中心的な役割を果たしており、同法人の他事業所とともに運営推進会議の他にも毎月地域の方も含め様々な会議に参加しており、安心安全にみんなで行くコミュニティが構築されています。また法人全体で年間計画を立てており、外部講師を招いての研修も様々なテーマが取り上げられ、職員は多職種との交流もしながら知識の習得を積極的に行い、サービス向上に繋げています。災害対策においても隣接の他事業所とともに、区長に連携体制の依頼をしており地域と協力しながら取り組んでいます。又、LAN件にも初めて参加し入居者と一緒に地域の一員として楽しみながら生活しています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	老人保健施設と同じ理念と、アネシス独自のモットーをスタッフで共有し、個人を尊重した援助に繋げている。アネシスモットーは朝礼時に唱和し意識付けを行っている。	同法人の小規模多機能とともに年間計画として地域への参加を目標として掲げている。又「ゆっくりゆったりその人らしく」を事業所のモットーとし日々の支援に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	祭りなどの地区の行事に参加している。今年度は「LAN伴岡山」にご利用者に参加し、多くの方との交流の機会を持った。直接的な交流は課題が残るが、エントランスに毎月写真を掲示し、日々の様子を発信している。	毎年5～600人の参加のある介護フェスタや月二回の認知症カフェ等を法人主体で開催しています。又、祭りなどの地域行事にも参加し交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平成27年度より医療法人で認知症カフェを開催し、リハビリ職員による各種体操や情報提供を行っており、地域の方々に定着している。また介護フェスタにて情報を発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、役場の職員、ご家族、区長、地域住民の方に参加頂き色々な視点で意見をいただいたり、情報交換を行っている。その意見を現場に持ち帰りカンファレンス等で検討している。	会議には10人ほどの参加があり、地域の高齢者への対応を問われアドバイスしたり、災害についての話し合いをしたりと相互に協力し合いサービス向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際に施設の現状や取り組み、悩みなどを報告したり、災害時の連携体制を整備している。地域密着サービス連絡協議会では意見交換や事例検討を行い、また研修を開催するなどしている	地域包括や介護保険課の職員と積極的にかかわりを持っています。運営推進会議の他にも法人で行われる会議で毎月顔を合わせ話す機会があり、互いに声を掛けあえる協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修やカンファレンス、マニュアルの読み合わせによって全スタッフが理解できるように努めている。気になる点があればカンファレンスや日常の中で検討を行っている。	年二回研修を行っています。言葉掛けや、対応について毎月のカンファレンスでも話し合いを行い、日々の支援の中でも職員同士で気に掛け身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成しており、研修も開催しスタッフ間で意識して対応している。不適切だと思われることがあれば定期カンファレンスや随時話し合いの場を設けて検討している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業・成年後見人制度について全スタッフが学ぶ機会は設けていない。必要に応じて活用できるような支援は介護支援専門員が行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、介護支援専門員とで直接面接できるよう時間を設け説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者との日常会話の中で要望等を聞いたり、面会時や運営推進会議の中で家族の意見を聞くように努めている。また、直接言いにくい事柄については記入し投稿して頂けるよう玄関に意見箱を設置している	面会時や運営推進会議で家族に会った際に話を聞く機会を設けています。事業所の環境面について指摘がありすぐに対応したケースもあり、要望を反映させるよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の業務カンファレンスでスタッフの意見を聞いている。またカンファレンスに参加出来ないスタッフには事前に書面にて意見をもらっている。	普段より意見を言いやすい関係作りがなされています。必要があればリーダーが意見をまとめ管理者へ報告する仕組みが出来ています。また希望者には随時個人面談を実施しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	スキルアップの為に資格取得の支援や資格手当の支給等を積極的に進めている。また業務・給与等に関する個人の意見を吸い上げるように個人面接を実施している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年度よりキャリア段位取得を目指した内容で研修を実施している。また法人内での研究発表会では専門職から指導を得るなど連携を図っている。外部の認知症研修には積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入会しており研修会に参加し交流を図っているほか、和気町の地域密着サービス連絡協議会を通して他のホームと交流や情報交換を行っている。また平成28年度より発足した「きよまる連携研修会」にも参加し情報交換等行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当スタッフを配置し、そのスタッフを中心に関わりを持つことによって信頼関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に管理者・介護支援専門員により細かな項目で一つ一つ要望を聞くようにしている。また入居後の様子をお伝えするようしており、その際にもご家族の意見を聞くように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員を中心にアセスメントを実施し、現状の把握に努めている。また、本人の声や他事業所からの情報提供に基づきケアプランを作成している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	研修を開催・参加するなどして、コミュニケーション能力の向上に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者に何か変化があった際には、その都度連絡を入れている。また二ヶ月に一回の個人の状況報告を写真付きでご家族に送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や散歩・行事の参加によって、地域の方に会うことが出来る機会を多く作るよう努力している。また、面会時には、他入居者を気にせずゆっくりと過ごして頂けるように環境を整えている	入居者は近隣の方が多いため、近所の方や兄弟が気軽に事業所に訪ねて来られたり、以前担当だった民生委員も様子を見に寄ってくる等馴染みの関係継続が出来ています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り、入居者同士の関係作りに努めている。また、居室で過ごすことが多い入居者にはスタッフから積極的に関わりを持つよう努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても関係性は大切にしており、たまにはお会いしに行ったりなど必要に応じて相談・支援を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションの中で本人の思いが把握出来るように努力している。また月に一回のカンファレンスにて本人の意向の把握や共有に努めている	特技や家事、趣味などその都度本人の様子などを日誌に書き留め、申し送りノートで職員全員で共有し、どんなことが好きなのか、何がしたいのかを考え本人本位の検討に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族からこれまでの暮らしや趣味などの生活歴を伺い出来る限り自宅に近い環境で生活して頂けるよう努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カルテの記入には、ご本人の言葉や表情・細かな変化、興味を持たれたことなどを記載するよう努力している。また、週一回の医療連携と訪問サービス、必要に応じて医師や看護師に意見を頂いている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフと介護支援専門員が中心となり、介護計画を作成している。入居者に変化があった場合、もしくは半年に一回はモニタリングを実施し次のケアに繋げている	現在人生歴の理解に重きを置いて一人ひとりにあったよりその人らしい生活の実現に向けた介護計画の作成にチームで取り組んでいます。	本人の意向の確認や家族の思い、又必要な関係者とともに入居者がより良い生活を送れるように現状に即した介護計画の作成をしていかれることをこれからも期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	客観的情報だけでなく、ご本人の言葉や表情なども記入し、日常生活の様子が分かりやすいような記録に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態が変化していく入居者に対して、本人・家族の要望を十分に聞き現状に合わせた支援が出来るように努力している。併設する事業所と一緒に色々な取り組みを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域貢献活動として、入居者と一緒に花壇に花を植え手入れを行ったが、余白があったり季節感を取り入れられていないため継続していく。また雑巾を縫い寄付をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃の状態を把握し、スタッフ付き添いにて定期的な受診や訪問診察を受けているが、体の健康面だけではなく精神面や生活全般での相談を行い医師の見解を聞きケアに反映させている	24時間体制で北川病院と連携が出来ており、緊急時にも対応できています。専門医へは家族の協力も得て受診をしたり適切な医療が受けられるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回決まった看護師が入居者の健康管理を行っている。また病院看護師による週一回の訪問サービスを受けている。その他、必要に応じて併設の老人保健施設の看護師に医療に関する相談・助言をしてもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者・介護支援専門員を中心に病院の相談員と密に連絡を取り状況を把握している。入院中は定期的にご本人に面会し、毎回看護師と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約書の中に看取りについての指針を掲げており、入居時に家族に説明している。また状況に応じて早期に主治医より家族へ説明を依頼し看護師との連携の上で再度説明・同意を得るようにしている。	同法人の病院や老人保健施設の利用もあり、まだ看取りまでは至っていないが、他事業所での経験ある職員やマニュアル・指針も細かく定め、研修も行いながらチームで看取りが出来る体制を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてマニュアル化し、職員で読み合わせをしている。施設全体での研修会も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えスタッフの動きをマニュアル化・緊急連絡網の作成も行っている。また定期的な避難訓練を行っている。運営推進会議にて区長に災害時の連携体制を依頼し、会議では実際の災害の情報交換を密に行っている。	火災による避難訓練、もう一回はその都度想定を変え年二回の訓練を行っています。近年の豪雨災害を受け現在水害に対するマニュアルの見直しをしています。	様々な想定での訓練を地域の方の参加も促し、地域全体で協力しながら災害対策に取り組んでいかれることをこれからも期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	倫理規定や運営理念・行動指針を定め、入居者の尊厳が保たれるよう定期的に読み合わせやカンファレンスを実施している	その人がどんな人なのか、どんな生活を送ってきたのかを知り、個人個人にあった対応ができるように接遇研修も定期的に行いながら、誇りやプライバシーを損ねない支援に繋がっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人に選択してもらえる声掛けに努め、言葉での表出が難しい方は表情や状況をしっかりと確認・把握し、思いや希望に耳を傾ける努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アセスメントや日々のコミュニケーションから得た本人の特技や趣味などが生活の中で役割となるよう努力している。また、何をしておきたいかなど本人の意思を伺うよう心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時の服の選択や散髪の実施の有無・髪型の好みを本人に確認するようにしている。また、入居時にはおしゃれに対する嗜好を聞くようにし、以前より好んで着られていた衣類を持ってきて頂くなど家族にも協力して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや調理、配膳や洗い物など出来る方には手伝って頂いている。また、気分転換に外食の機会を設けたり、日頃のコミュニケーションの中から何が食べたいか把握しそれをメニューとして出すように努めている	平日の昼夜は隣接事業所の栄養課で食事準備が行われているが毎朝食と日曜祝日の昼食は可能な範囲で入居者と準備や食事作りをしています。又誕生日には本人の希望を聞き外食支援もしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は個々にチェックを行い毎日記録している。食事量に関しては、減少あれば摂取量のチェックを行い、主治医、看護師などと相談し補助食を提供している。また食の好みを再度確認し状態に合わせて提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々にあった方法で口腔ケアを行っている。また、状態の変化がある場合には直接歯科へ受診するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、それをケアプランに挙げ統一したケアが出来るよう努めている日常生活動作の低下がみられる方は、併設施設の作業療法士に相談し、移乗しやすい方法などを提案してもらっている	個人の状態に応じて、二人介助や作業療法士に移乗方法などのアドバイスを受け、本人に負担なく可能な限りはトイレでの排泄支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分がこまめに摂れるように疾患に配慮しながら色々な飲み物を提供している。毎日、排便チェックを行い医師・看護師と連携を図りながら排便を促している。日常生活内で体を動かす機会を設けるよう努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週三回の入浴を行っているが、希望に応じて回数を増やしたりもしている。反対に入りたくない時は、無理にはお誘いしないようにしている	本人の気分によって日にちを変えたり、続けて入浴したりすることも可能で、その日の体調も考慮し臨機応変に対応しています。又入浴時間はゆったりとコミュニケーションをとれる場として個々に沿った支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時には本人の希望に応じて休んで頂いている。しかし、日中の睡眠時間が長くなり夜間の不眠に繋がらないようには気を配っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の際に、医師や薬剤師に副作用について確認し、また薬変更時にも全スタッフに申し送りを必ず行い、共通理解出来るよう努めている。錠剤が内服できないなど内服時の状態変化があれば医師・薬剤師に相談し対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時のアセスメントや知り得た生活歴、日頃のコミュニケーションの中から役割を見つけ、それをケアプランに挙げるなど実践している。生活機能連携加算によるリハビリ内でも実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	担当職員が中心となり、外出の計画を立て実施している。また、車の空いていて出掛けやすい日曜日などには、コミュニケーション中に話が出た場所などに、思いつきで外出やドライブに出掛けることもある	病院への受信も含め、近くの神社への散歩や各種行事への参加など日常的に外出の機会を設け支援しています。また家族にも協力してもらい外食や外出支援も行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から預かったお小遣いについては、スタッフが管理し二ヶ月に一回使用状況を報告し、本人が持たれているお金は個人で管理して頂いている。ご自分で支払いが難しい方が多いが、本人の目の前で声をかけながら支払いを行うように努めている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の介助を行ったり、代わりに要望を伝えたりしている。手紙や届け物があつた際には、お手伝いをさせて頂いたり、そこから以前の交流の様子をお伺いし生活歴の理解に繋げている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一日二回温度・湿度の確認・記録を行い快適な空間作りに努めている。感染症流行時期には回数を増やしている。また、季節に合わせたものを飾ったり花を生けるなどしている	リビングにある洗面台は入居者に合わせて高さが変えられ、使いやすくなっています。ウッドデッキにも出られ、そこでお茶をしたり桜を眺めたりゆっくり過ごすことができます。又こまめに換気を行ったり次亜塩素酸水を用いて空間除菌などにも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では席が定着している方もおり、それをスタッフは把握している。また、リビングにソファを置いたり、和室でゆっくりして頂けるような環境を整え声かけをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、自宅で使用されていた家具を持ってきて頂いたり安全に過ごせるようベッドは個々に合ったものを提供している	家具や写真など好みの物を持ち込んでいます。低床ベッドやベッドマットなど入居者それぞれの身体状態に合ったものを使用し、使いやすく生活しやすい居室作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の能力とそれを活かした生活についてケアプランに挙げ共通理解出来るように努めている。また日常生活に補助具などが必要と思われる時には併設施設の作業療法士に相談し助言をもらっている		